

やよい



平成23年度 弥生校下成人式

平成24年1月8日

式辞(抜粋)

弥生公民館 館長 山本 茂



昨年三月十一日の東日本大震災は皆さんの脳裏に焼き

付いていることでしょうか。日本は、幾多の脅威や国難に遭遇してまいりました。しかしその都度、時事に即し、変革し復興し奇跡とすらいえる成長と発展で世界に冠たる国となりました。再び、この国において奇跡は起こるのだと信じています。

震災後、我々の意識が変化したように感じるのは私だけでしょうか?この試練をチャンスに替えたい、高き日本と日本人を取り戻すことによりこの国で再び奇跡が起こると信じます。この国が甦ること

で犠牲となられた方々への鎮魂が終えるのだとも。皆さんに取って願います。共に奇跡を起こしましょう。

この国の未来の為に私達自身の為にやがて来る皆さんの方の子どもたちの為に

祝辞(抜粋)

町会連合会 会長 相川久嗣



ご成人おめでとうございませう。昨年未曽有の東日本

大震災を体験しました。私達があの震災でみたものは、大自然の猛威の前では宮々と築き上げてきた物質文化が無

力であり、恵まれた人もそうでない人も平等であるという現実でした。そんな悪夢の中で見た光明は、人々が助け合い、励まし合い、絶望の淵から懸命に這い上がろうとする強い生命力

でした。絆という強い心で結ばれた人々の明日へ向けた真摯な営みに、私たちはどれほど感銘を受け、勇気づけられたか分かりません。そんな時に皆さんは成人という人生の節目を迎えられました。絆をキーワードに自分をどんな色に染め上げるか。皆さんの可能性への挑戦に対し、周りの家族、友人、知人は、皆さんを温かく見守っています。

平成 24 年

成人式

1月8日(日) 10:00~13:30
於) ホテル日航金沢 孔雀の間

門出を祝う二十歳の式典

二十三年度成人式はホテル日航金沢(孔雀の間)で開催された。晴れ着姿や慣れないスーツを着た新成人。大人になることへの喜びと戸惑いがはにかんだ笑顔から伝わってきた。新成人たちは友人との久しぶりの再会に晴れやかな笑顔を見せ、抱きつかんばかりに話し合う光景が随所で見られ微笑ましく感じた。父兄は愛娘の晴れ着姿に見とれながら記念に残そうとシャッターを盛んに切っていた。

出席者五十三人全員が揃い国歌斉唱。金沢市民憲章を全員で唱和。公民館館長の山本茂氏から期待の致辞。年代的に近い既成人(弥生小学校卒)の助言・激励を得ようと先輩を招き想いを語って貰った。

金沢市からの記念品授与、力強い決意の謝辞、明るい選挙推進の決議文の読上げ、グッドマナー宣言、厳肅な雰囲気の中で、整然と進められ式典を終えた。



先輩(弥生小)の激励



黒田 真吾さん

日を迎えられた、その感謝の気持ちをは是非家族に伝えて下さい。現在営業職の私は、人との繋がりの大切さを強く感じています。そしてどんな時も、相手の立場になって考え、思いやる気持ちを持って欲しいと思います。最後に「奇跡とは... (中略)・自分には無理だと諦めている人には絶対に起きません」TVドラマ「家政婦のミタさん」の言葉ですが... (笑)



夷藤 美里さん

ご家族や地域の方々はいろいろなお陰で今日を迎えたいことをする。「自分のやりたいことをする。決めた道を信じ自信を持って取り込むこと」でした。教員の仕事は自分で決めた道なので楽しく頑張っています。悩んだ時には暗くならず人に話を聞いてもらいます。そして「一生懸命やっつとるから悩み迷うんだ！」と自分を励まし働いています。皆さんが、楽しく充実した日々を過ごされるように祈っています。

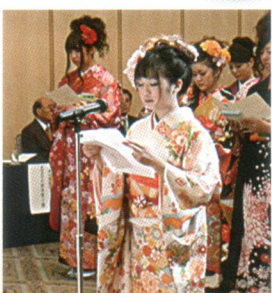
謝辞

新成人代表 中良介



盛大な式典を催していただき、またご列席の皆様より心温まるご祝辞を頂き厚くお礼申し上げます。
私たちが晴れて成人を迎えることができましたのも、これまで導いてくださった先生方と地域の方々、愛情深く育てていただいた両親のおかげであると心から感謝しております。これからは、成人としての責任を自覚し、皆さまの期待に応えるよう努力していきます。

人生の節目の前に、昨年の東日本大震災から対策協力しあうことの大切さを改めて学びました。この震災の教訓を胸に、よりよい社会人になることをここにお誓い申し上げます。
まだまだ、未熟ではありますが、より一層のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。



グッドマナー宣言
徳和 真理さん

公民館フェア「楽集」

第49回 金沢市公民館大会

●平成二十四年二月十八日(土)
十九日(日)

金沢市文化ホール

金沢市内の公民館が集結して開催された公民館フェア楽集。浅香教育長からは、「大震災で地域作りの大切さが再認識された今、地域作りの核となるのは公民館です。」山野市長からは「金沢方式」といわれる公民館運営は大変すばらしく、全国から問い合わせが来ます。受賞された方々は勿論、皆様の日頃の活動に感謝します。」と挨拶がありました。

金沢市公民館

優良役員表彰

(金沢市長感謝状)



大坪 六秋氏 (副館長)

昭和六十一年体育レクリエーション部副部長に就任されて、優れた企画力と行動力で地域スポーツの発展とこどもたちの体力向上に貢献されました。今年度からは副館長に就任され、弥生校下のスポーツ発展にご活躍中です。これらの功績により、金沢市長感謝状表彰、おめでとうございます。これからもご指導宜しくお願ひ致します。

金沢市公民館

優良役員表彰

(金沢市公民館連合会会長表彰状)



能村 良氏 (副館長)

平成四年から青少年教育部長、文化事業部長を歴任されました。また平成十六年度からは副館長を勤められ昨年度からは、さくらセミナー部長としても、ユニークな事業でご活躍中です。文化祭などの公民館文化系活動の企画・管理、文化事業の発展と地域活性化への功績が認められました。

金沢市公民館

永年勤続10年表彰

(金沢市公民館連合会会長表彰状)



野村 依正氏

(視聴覚部副部長
視聴覚部部長)

副部長をされ、視聴覚部の発展と三大事業の躍動的な写真をいつもありがとうございます。ますますのご活躍を期待しております。



山科 成司氏

(会計監査)

て、長年公民館の経理面に指導を頂き、ありがとうございます。今後も、公民館運営に宜しくお願ひ致します。

みんなで作ろう 公民館

創作作品展

“みんなで作ろう公民館”を合言葉に、今年は4グループがものづくり作品を出展しました。自然を詠む“俳句教室”、自助の心で“防災ずきん”折紙方式の“キルトバッグ”、便利・簡単な“手作りグッズ”どれも自ら工夫した、創造豊かな出品でした。

俳句教室～自然を詠む～



防災ずきん



自分でできることは自分で。

キルトバッグ



折り紙を折る様式で再利用。優しさを込めた手作り品です。

手作りグッズ



世界に一つの、オンリーワン品。

コーラスフェスティバル

今年のコーラスフェスティバルは、大震災への思いもあり、各コーラスグループとも、“歌える幸せ”そして、“故郷・花・月”などを歌詞とする選曲が多かった。

参加19グループ中、8番目に登場した弥生コーラス16名は、指揮：笠野泰子氏、ピアノ：稲田育子氏のもと、「小さな幸せ」、「不思議」の2曲を、リズムに乗り、暖かく優しい表情で歌った。爽やかな歌声は、毎週の練習の賜物なのであろう。



平成23年度 活動を振り返って

◎みどり学級 平成23年度を振り返って (部長:竹田 浩)

3月6日の閉級講演をもって、23年度のみどり学級は無事終了しました。4月の開級は約100名のメンバーでスタートし、全7回の行事には毎回多数の参加をいただきました。

公民館での講演や実技を含む講習、遠出の日帰りバス旅行、近隣の施設見学、コンサートや落語、演劇などの観賞とこれからも楽しく新たな見聞を広め、お互いに親睦を深めていきたいと思ひます。



◎さくらセミナー 23年度を振り返って (部長:能村 良)

23年度の実施内容です。地域の方々に「見る聴く作る知る味わう感じる」の体験をしていただきました。24年度も「さらにくふうしてらいふワークのお手伝いとなるセミナーを」と考えていますのでご参加下さい。

| | | |
|----|-----------|------------------------------|
| 1 | 5/20 (金) | 開級講演 “毎日明るく楽しく生きる女性を目指して” |
| 2 | 6/2 (木) | 視察研修旅行 (徳川美術館 他) |
| 3 | 7/2 (土) | ノルディック風スキー歩行を学ぶ |
| 4 | 7/26 (火) | 簡単に作れる“防災ずきん” |
| 5 | 9/30 (金) | 楽しく食べて健康づくり |
| 6 | 10/20 (木) | 新しい体操(ピラティス)を体験しよう |
| 7 | 11/24 (木) | 紅葉の金沢城、兼六園の散策 |
| 8 | 12/9 (金) | 優しいデジタルカメラ入門 |
| 9 | 2/8 (木) | おいしいコーヒーの飲み方 |
| 10 | 2/23 (木) | 閉級式 “古九谷と法話の旅” |



閉級式 石川県九谷焼美術館にて

◎視聴覚部 23年度を振り返って (部長:吉野更二)

23年度の事業は、「やよい写真教室」として、会員20名で、写真講座を年6回、写真展示会を2回開催しています。

写真講座は講師は視聴覚部で選任し、毎回会員の撮影した写真4枚について、講評を受ける。その後講師により、花火撮影の優れた方、卓上の花と花器を幻想的に撮影される方等、夫々自分の作品を多数持参して、それを詳細に解説してもらっています。

展示会は10月に芦中郵便局で、3月はアートシアターいしかわで開催いたします。会員の作品は確実に向上しています。



◎環境部 泉中との相互交流 (部長:嶋田尚蔵)

1. キャリア体験生と仕事 (9月28日)

男子2年生4名が公民館のゴーヤカーテンの撤去を行い、古い土の再生と後片付けなど一連作業に環境部員と共に汗を流しました。後日、生徒達から「いい体験をした。」「仕事を通じて仲良くなれた。」「年の違う人と接することは難しい。」など率直な意見と、将来体験を生かしたい決意が述べられた貴重な体験談が寄せられました。

2. 泉中文化祭「創」に参加 (10月30日)

重点活動の“アクリルたわしの手作り”の指導と環境活動の展示を行いました。熱心な生徒達により、可愛い作品が沢山できあがりました。美しい水環境を守りたいものです。



アクリルたわし作り

◎少年教育部 23年度活動を振り返って (部長:渡辺浩志)

少年教育部は、中学生までの子供達を色々な活動を通して健全に育成する事を目的に活動していますが、それだけでは無く色々な世代の人達とかわり繋がり行く事も目的の一つです。今年度も、新たに冬のミニ運動会を加えて、色々な活動の中で育成委員・地域の皆さん・学校の先生方などの協力を得て、より良い活動に成ったと思ひます。関係者の皆さんご協力ありがとうございました。24年度も頑張りますので、皆さん宜しくお願ひ致します。



提灯太鼓行列



グラウンドゴルフ



ユニセフ募金



ミニ運動会

◎体育レクリエーション部 10年間を顧みて (部長:松田 啓)

弥生校下のスポーツレクリエーションを託され10年が経ち、就任当初の戸惑いと熱意は現在も忘れません。当時設立のシルバーソフトボールクラブのメンバー30人余、毎日曜の早朝練習で対戦試合可能なまでに成長しました。4年前に同好会として発足したバドミントンクラブは好評の一途で午後と夜の部に分ける50人余り集まるまでとなりました。従来のグラウンドゴルフクラブとソフトバレーボールクラブも市民大会で準優勝を飾り大活躍です。これからも社会体育大会をはじめラージボール卓球などニュースポーツの普及を通じ皆様の心身共の健康、親睦づくりに一層お役に立ちたいと思ひます。



親子バドミントン教室

特集

やよい今昔を顧みて

かえり

第七回 陸軍病院泉野分院

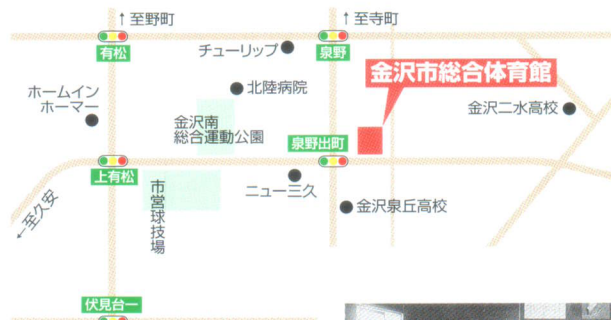
太平洋戦争の末期、戦鬪の激化により戦死者・戦傷病者の数は増大した。軍都金沢には多くの陸軍用地があり、小立野台と城内、そして野田山麓に広大な練兵場や部隊兵舎が展開していた。さらに陸軍病院・陸軍墓地そして護国神社などの関連施設もあった。

増大する傷病兵を収容すべく、陸軍は病院の分院を建設することになり、その候補地を泉野地区と選定した。幻の昔日の面影を追跡しようと参考書類を探したが見つからず、漠たる話で掴めなかった。

泉ヶ丘一丁目の千代宏氏から、地黄煎町通りから泉ヶ丘高校の手前付近とのヒントを得、二丁目の丸岡貞氏より、この付近は畠地・竹藪・墓地などで住宅は無く、この扇状地の一角を病院の適地とし、地域の世話役らの決定に従い地主たちは土地を提供。墓地は野田山へ優先的に移転、杉の木も多く伐採し建設した。地黄煎町通りからは直交ではなく、斜線状に道があったが、これを利用して、四囲に舗装道路をつけた。

病院は厨房と浴室以外は木造平屋のバラック建て。後に隣接して陸軍経理学校も建設された。

長坂用水は水不足なので山科の川水・大乗寺付近の水を利用した(現雀谷川)。傷病兵のうち、栄養失調やマラリアで死亡する者も少なくなかった。



陸軍病院泉野分院の跡地は、北鉄自動車学校となり現在は、金沢市総合体育館となっている。



〈金沢陸軍病院慰問の女学生〉

20世紀の照像
石川写真百年・追想の図譜 改編版
発行：能登印刷出版部 より引用

当時の入院患者で上坂良吉氏(暁町一丁目)はトラック島の最前線からの帰還兵で、同島は昭和十八年十一月からの猛攻で大損害を受け、爆弾の破片が左足関節部に刺さり歩行困難となり、終戦の年の十月十四日、第一回帰還許可で松葉杖をついて横須賀・習志野・泉野分院を転院。入院患者が増えると軽傷者は転・退院させられた。

平成十四年 奥谷陽一先生の記事より

平成二十三年度

全国子ども会連合会表彰

黒田 悟・外代子さんご夫妻



金沢市子ども会連合会の副部長として長年、「ちようちん行列」をはじめ役員として多々の催し物に活躍をされています。また校区の子どもたちに「ミニ門松作り」などを指導、青少年の健全活動にも積極的に活躍され、このたび、奥様の外代子さんご夫妻での受賞となりました。おめでとうございました。引き続き、地域の発展に宜しくご指導をお願いします。

●広報部 第一〇〇号に繋げて

(部長・浅田睦子)

何をどう伝えたいのか。毎回、この言葉をキーワードに紙面作りを考えました。顧みて、三月十一日の東日本大震災を踏まえ、第九十七号に取り掛かりました。義援金を募り、支援物資の調達と公民館あげての活発で、暖かい皆さんの心を伝える記事を一面トップにしました。また、第九十八号は、体育大会、文化祭で写真を中心に楽しく、第九十九号は成人式の厳粛な空感と祝賀会の賑やかな雰囲気を取り上げました。



第98号

第97号

あとがき

厳冬に思考が鈍りがちでしたが、成人式の記事を例年どおりに仕上げる事が出来た幸せをかみしめました。

今年度は特に四季を通じて次々と災害に見舞われ、哀しい記事に心塞ぐ思いでした。例年どおりが出来ない人々が多くいます。それでも、悲しみや苦しみを乗り越え元気な日本を取り戻したいと心より強く思いました。

(浅田)